



【2016年9月12日～9月16日】

1. 先週の市場動向

【先週の市場の振り返り】

＜株式＞	先々週末 2016/9/9	先週末 2016/9/16	前週比
NYダウ（米国）	18,085.45	18,123.80	0.21%
日経平均株価（日本）	16,965.76	16,519.29	▲2.63%
DAX指数（ドイツ）	10,573.44	10,276.17	▲2.81%
FTSE指数（英国）	6,776.95	6,710.28	▲0.98%
上海総合指数（中国）	3,078.86	3,002.85	▲2.47%
香港ハンセン指数（中国）	24,099.70	23,335.59	▲3.17%
ASX指数（豪州）	5,339.18	5,296.70	▲0.80%
＜リート＞	先々週末	先週末	前週比
S&Pグローバルリート指数	187.33	184.67	▲1.42%
＜債券＞（利回り）（％）	先々週末	先週末	前週差
米国10年国債	1.675	1.693	0.018
日本10年国債	▲0.015	▲0.039	▲0.024
ドイツ10年国債	0.011	0.007	▲0.004
英国10年国債	0.859	0.873	0.014
＜為替＞	先々週末	先週末	前週比
ドル円	102.69	102.29	▲0.39%
ユーロ円	115.35	114.10	▲1.08%
ユーロドル	1.1233	1.1155	▲0.69%
豪ドル円	77.44	76.60	▲1.08%
＜商品＞	先々週末	先週末	前週比
商品（CRB指数）	182.54	180.78	▲0.96%
原油先物価格（WTI）	45.88	43.03	▲6.21%

＜株式＞

世界の株式市場は、米国など一部を除き、総じて下落しました。次週の米連邦公開市場委員会（FOMC）を控えて市場が神経質になるなか、ドイツ銀行の住宅ローン担保証券の不正販売問題が再度浮上し、金融株中心に欧州株が売られました。また、原油価格の下落も株価の下押し要因となりました。米国株式市場では、NYダウが前週末比小幅高で引けました。一方、欧州株式市場のドイツDAX指数は、2.8%の下落となりました。中国株式市場では、上海総合指数がほぼ1カ月ぶりの安値水準で引けました。日本の株式市場では、為替相場が円高・ドル安に振れたことなどが投資家の心理を冷やし、日経平均株価は2.6%の下落となりました。

＜債券＞

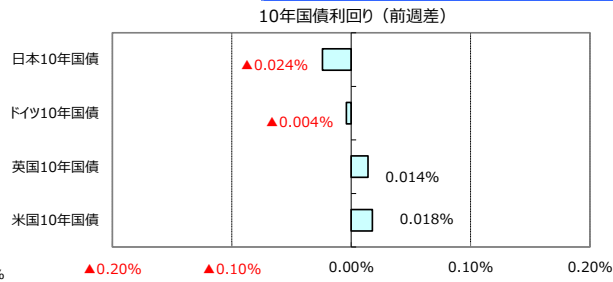
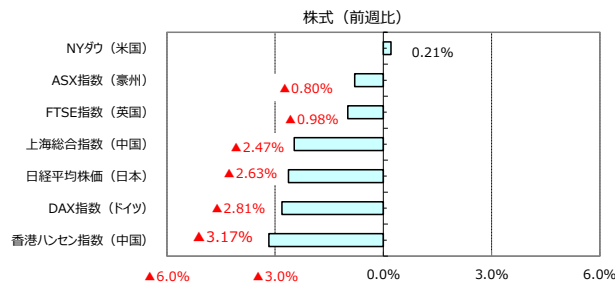
次週のFOMCでの利上げ観測はほとんど高まりませんでしたが、米国10年国債利回りは1.693%と、前週末比で小幅に上昇しました。一方、ドイツ10年国債の利回りは0.007%と、ほぼ横ばいでした。日本では、日銀の金融政策決定会合でマイナス金利が深掘りされるとの観測が高まるなか、日本の10年国債利回りは▲0.039%と、週間で小幅低下しました。

＜為替＞

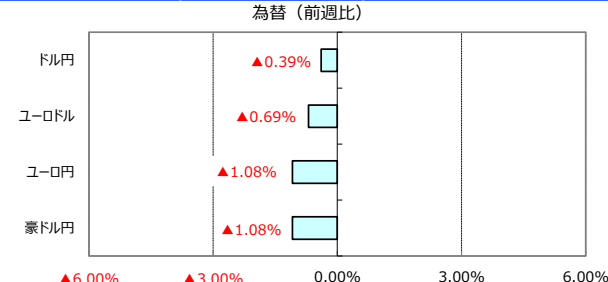
円相場は対ドル、対ユーロで前週末比上昇しました。一時、米国の経済指標の弱さから利上げ観測が後退し、円高が進みましたが、週末はやや円安に戻りました。次週に日銀金融政策決定会合とFOMCを控え、市場の様子見ムードが強いなか、円は、対ドルで102円台前半で終了しました。対ユーロでは、114円台前半で終わりました。

＜商品＞

原油先物価格は、43.03ドルと前週末比で下落しました。リビアとナイジェリアで政情不安によって閉鎖されていた石油輸出港が近く操業を再開する見通しだと伝わったことなどから、需給の緩んだ状況が続くとみた売りが出ました。



※利回りの低下は債券価格の上昇を表します。



※ユーロドルのプラス表示はユーロ高・ドル安。

（出所）Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成



【2016年9月12日～9月16日】

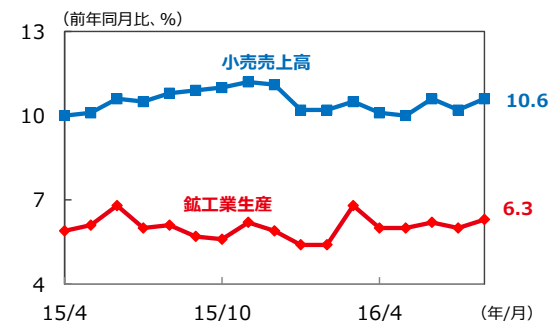
2. 先週のマーケット・デیلیー/ウィークリー

	テーマ	ポイント
9/12 (月)	先週のマーケットの振り返り	2016/9/5～9/9マーケットの振り返り
9/13 (火)	アジア・オセアニアのリート市場の最近の動向 (2016年8月) 調整を経て底堅い推移へ	1. グローバル市場は反落、米国の利上げ観測が背景 2. 豪州、香港が反落、シンガポールは上昇 3. 【アジア・オセアニアの相対的に高い配当利回りが相場の支えに】 米国の利上げは緩やかなペースで行われると見られます。アジア・オセアニアのリートは、高い経済成長を背景に、業績拡大と増配が期待されるうえ、相対的に配当利回りが高いことがサポート要因となり、堅調に推移すると期待されます。
9/13 (火)	米国の株式市場 (2016年9月) 調整は一時的で堅調さを取り戻そう	1. 金利上昇で株価調整、長期金利は2カ月半ぶりの高水準 2. 長期金利は低水準で推移、株価の重石にはならない 3. 【調整は一時的で堅調さを取り戻そう】 9月の米連邦公開市場委員会 (FOMC) で利上げの可能性は後退していますが、年内に利上げに踏み切る公算は高いと考えられ、株式市場は当面神経質な展開が続くと思われます。株式市場は金融、業績の両面から次第に堅調さを取り戻すと考えられます。
☆ 9/14 (水)	最近の指標から見る中国経済 (2016年9月) 景気は財政拡大で安定的な推移へ	1. 固定資産投資の伸び横ばい、民間投資も伸び横ばい 2. 鉱工業生産は伸びが拡大、小売売上高も伸びが拡大 3. 【景気は財政拡大で安定的な推移へ】 中国政府は、中長期的な構造改革を掲げる一方で、財政政策によって当面の景気を安定させることを優先すると見込んでいます。このため景気は安定的に推移すると期待されます。
9/15 (木)	鉄鉱石・石炭価格の動向 石炭は底堅いが、鉄鉱石の上値は重い展開へ	1. 石炭価格の上昇が顕著、原料炭は急騰 2. 中国で石炭の減産が進む、種々の生産障害も上昇に拍車 3. 【石炭は底堅い値動きか】 石炭に関しては、洪水被害や、豪州の生産障害などの一過性要因で上昇した部分の反動が予想されますが、中期的には、底堅い市況が期待されます。中国の需給が引き締まっているうえ、世界的に新規の鉱山開発も限定的なためです。
☆ 9/15 (木)	最近の指標から見るブラジル経済 (2016年9月) 景気底入れの兆し、経済改革に期待	1. 実質GDPは▲3.8%、9四半期連続のマイナス成長 2. 景気底入れの兆しも、消費者信頼感が改善基調 3. 【テメル政権の改革に期待】 ブラジル政府は13日、空港の運営や電力供給、石油・天然ガス生産など国営事業の大規模な民営化計画を公表しました。テメル大統領が進めようとしている経済改革がいよいよ動き出しました。
9/16 (金)	BOEの金融政策 (2016年9月) 金融政策は据え置き、次回追加金融緩和か	1. 金融政策は据え置き、政策金利、量的緩和規模とも維持 2. 8月の金融緩和は効果あり、2016年後半の減速は緩やかに 3. 【11月に追加金融緩和が行われる可能性が高い】 次回11月の委員会までに、経済指標の多くで強い結果が示されなければ、BOEは政策金利を0%近傍まで引き下げるなど、追加金融緩和を実施すると見られます。このため、英ポンドは当面下落圧力を受けやすいと思われます。

☆先週の市場動向に関連する代表的な「グラフ・図表」

☆9/14最近の指標から見る中国経済 (2016年9月)
景気は財政拡大で安定的な推移へ

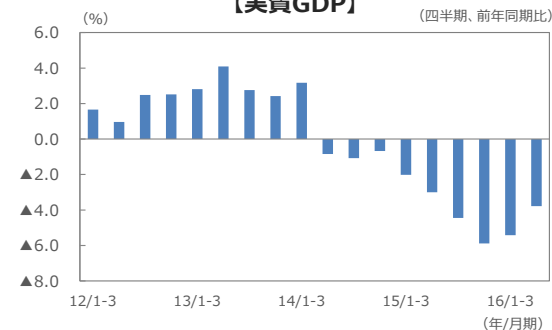
【鉱工業生産と小売売上高】



(注) データは2015年4月～2016年8月。
1月、2月は1-2月平均の前年同期比。数字は2016年8月。
(出所) 中国国家统计局のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

☆9/15最近の指標から見るブラジル経済 (2016年9月)
景気底入れの兆し、経済改革に期待

【実質GDP】



(注) データは2012年1-3月期～2016年4-6月期。
(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

☆ は右の「グラフ・図表」を参照。



【2016年9月12日～9月16日】

3. 今週の主な注目材料

日付	米国	日本	欧州	アジア・オセアニア・その他
9/19 (月)	9月NAHB住宅市場指数			中国8月70都市住宅価格指数
9/20 (火)	8月住宅着工件数	8月コンビニ売上高	独8月生産者物価指数	
9/21 (水)	米連邦公開市場委員会 (FOMC) ☆	金融政策決定会合 ☆ 8月貿易収支 8月訪日外国人客数 8月全国百貨店売上高		
9/22 (木)	7月FHFA住宅価格 8月中古住宅販売件数 8月景気先行指数		ECB月報 ユーロ圏9月消費者信頼感	トルコ金融政策決定会合 ☆
9/23 (金)	9月マーケット製造業PMI	7月全産業活動指数	ユーロ圏9月製造業PMI ☆ 独9月製造業PMI	
☆ 今週の注目点	米国の金融政策で追加緩和があるか、FOMCが注目されます。	日本の金融政策で追加緩和があるか、金融政策決定会合が注目されます。	欧州の景気動向を見るうえで、ユーロ圏のPMIが注目されます。	トルコの金融政策で追加緩和があるか、金融政策決定会合が注目されます。

※各経済指標・イベントは予定であり、変更されることがあります。

弊社マーケットレポート

検索!!

先週の注目の「マーケット・デیلیー」

2016年 9月14日 最近の指標から見る中国経済 (2016年9月) 【デیلیー】

2016年 9月15日 最近の指標から見るブラジル経済 (2016年9月) 【デیلیー】

先週の「マーケット・ウィークリー」

2016年 9月12日 先週のマーケットの振り返り (2016/9/5-9/9) 【ウィークリー】

先月の「マーケット・マンスリー」

2016年 9月 2日 先月のマーケットの振り返り (2016年8月) 【マンスリー】

先週の注目の「マーケット・キーワード」

2016年 9月14日 金融政策の「総括的な検証」(日本) 【キーワード】



【2016年9月12日～9月16日】

【重要な注意事項】

【投資信託商品についてのご注意（リスク、費用）】

●投資信託に係るリスクについて

投資信託の基準価額は、投資信託に組み入れられる有価証券の値動き等（外貨建資産には為替変動もあります。）の影響により上下します。**基準価額の下落により損失を被り、投資元本を割り込む**ことがあります。

運用の結果として投資信託に生じた**利益および損失は、すべて受益者に帰属**します。したがって、投資信託は**預貯金とは異なり、投資元本が保証されているものではなく**、一定の投資成果を保証するものでもありません。

●投資信託に係る費用について

ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。

◆直接ご負担いただく費用 … 申込手数料 **上限3.78%（税込）**

… 換金（解約）手数料 **上限1.08%（税込）**

… 信託財産留保額 **上限3.50%**

◆投資信託の保有期間中に間接的にご負担いただく費用 … 信託報酬 **上限年 3.834%（税込）**

◆その他費用 … 監査費用、有価証券の売買時の手数料、デリバティブ取引等に要する費用（それらにかかる消費税等相当額を含みます。）、および外国における資産の保管等に要する費用等が信託財産から支払われます。また、投資信託によっては成功報酬が定められており当該成功報酬が信託財産から支払われます。投資信託証券を組み入れる場合には、お客さまが間接的に支払う費用として、当該投資信託の資産から支払われる運用報酬、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用等に関しましては、その時々取引内容等により金額が決定し、運用の状況により変化するため、予めその上限額、計算方法等を具体的には記載できません。

※なお、お客さまにご負担いただく上記費用等の合計額、その上限額および計算方法等は、お客さまの保有期間に応じて異なる等の理由により予め具体的に記載することはできません。

上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、三井住友アセットマネジメントが運用するすべての投資信託（基準日現在において有価証券届出書を提出済みの未設定の投資信託を含みます。）における、それぞれの費用の最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資をされる際には、事前に投資信託説明書（交付目論見書）や契約締結前交付書面等を必ずご覧ください。

●投資信託は、預貯金や保険契約と異なり、預金保険・貯金保険・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。また登録金融機関でご購入の場合、投資者保護基金の支払対象とはなりません。

●投資信託は、クローズド期間、国内外の休祭日の取扱い等により、換金等ができないことがありますのでご注意ください。

〔2016年4月1日現在〕

三井住友アセットマネジメント株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第399号

加入協会：一般社団法人 投資信託協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会、一般社団法人 第二種金融商品取引業協会

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。